

平成25年度 文部科学省採択 未来医療研究人材養成拠点形成事業

北の地域医療を支える 総合診療医養成プラン



北海道公立大学法人
札幌医科大学
Sapporo Medical University



●大学のシンボルマーク

「だ円」(枠組み)は宇宙の調和、「1945」は本学の創基年、「七光星」は北海道の象徴、「羽」は発展と飛躍、「柏の葉」は英知と質実、「へびと杖」は医学のシンボル、アスクレピオスの杖を、それぞれ表現しています。

建学の精神

- 一、進取の精神と自由闊達な気風
- 一、医学・医療の攻究と地域医療への貢献

理 念

最高レベルの医科大学を目指します

- 人間性豊かな医療人の育成に努めます
- 道民の皆様に対する医療サービスの向上に邁進します
- 国際的・先端的な研究を進めます

行 動 規 範

- 1 医学と保健医療学を通じて、北海道そして広く日本社会さらに世界に貢献します。
- 2 最高の研究・教育・診療レベルを目指します。
- 3 法令を遵守し、生命倫理・研究倫理・社会倫理を尊重します。
- 4 地域と社会に対して必要な情報を公開します。
- 5 人権・人格・個性を尊重し、差別・ハラスメントの無い環境を目指します。
- 6 生命倫理・社会倫理を脅かす反社会的行為に対し毅然として対応します。
- 7 地域・地球環境を守り、環境の保全・改善のために行動します。

CONTENTS

■ 事業の全体構想	3
■ ごあいさつ	4
■ 本学の事業の概要・達成目標・背景	5
■ 北の地域医療を支える総合診療医養成プラン	6
■ 医学部卒前教育	7
■ 総合診療医養成特化コース	9
■ 総合診療マインドを持つ専門医養成コース	10
■ 継続的ナリサーチマインドの醸成	10
■ キャリアアップ	11

事業の全体構想

〈はじめに〉

1 「未来医療研究人材養成拠点形成事業」とは

文部科学省では、急速に進展する高齢化等に伴う医療課題の解決に貢献し、国内外の医学・医療の発展を強力に推進することを目的とした「未来医療研究人材養成拠点形成事業」を平成25年度から実施しており、そのテーマのひとつが「リサーチマインドを持った総合診療医の養成」となっています。このテーマによる事業の目的は、国民が将来にわたって安心して医療を受けられる環境を構築するため、地域の医療機関や市町村等と連携しながら将来の超高齢社会における地域包括ケアシステムに対応できるリサーチマインドを持った優れた総合診療医等を養成することであり、全国から59件の応募のうち札幌医科大学の「北の地域医療を支える総合診療医養成プラン」を含めて15施設が採択されています。

2 「北の地域医療を支える総合診療医養成プラン」とは

本学の取組である「北の地域医療を支える総合診療医養成プラン」では、臨床研修プログラムを新たに2コース設けています。

- 1) 総合診療医養成特化コースは、大学附属病院総合診療科での研修に加え、総合診療医育成実績のある複数の関連病院において本学から派遣した専任教員から総合診療の指導を受け、総合診療専門医資格の取得を目指す内容であり、臨床研修のなかで地域に根差した医学研究能力を獲得すべく疫学や予防医学等をテーマとした研究に参加することができるプログラムです。
- 2) 総合診療マインドを持つ専門医養成コースでは、専門医資格の取得を目指した臨床研修と同時に、総合診療科へのコンサルテーション、総合診療科のカンファレンスを通して総合診療医として必要な知識と技能を涵養することを目的としたプログラムです。

なお、この取組では、臨床研修に繋がる教育として早期からの総合診療能力の形成を目的とした卒前教育プログラムを構築し、学部学生のパートナーシップ力や地域医療マインドの醸成を図ることとしています。

北海道の医師数は人口10万人対235.4人（平成24年末）とほぼ全国平均に近いが、北海道は本邦の総面積の23%と広範囲な医療圏を有するにも関わらず、人口は5%で、道内の医療対象人口の密度格差は地域によって極めて大きい状況です。医師は都市部に集中し、医師の偏在により地方の自治体病院の6割近くが慢性的に医師充足数を満たしておらず、特に道北、道東、道南の遠隔地域において医師不足が著しく、本道の医療の大きな課題となっています。このような地理的特徴を有する北海道の医療を支える上で、センター病院を中心にサテライト病院を配置し、一医療圏を形作る方式は現実的であり効果的な政策と言えるものであり、サテライト病院における総合診療医の役割には大きな期待がかかります。もちろん、このような医療圏から外れる地区においては、より総合診療医の需要は高いものの、一方では、総合診療医数は全国的にも多くはなく、総合診療医自体にも都市偏在があり、総合診療医が全て地域で活動しているわけではありません。従って、道内で総合診療医が地域医療をカバーし、人数的に充足するには、まだまだ時間がかかるものと思われます。そして、地域医療に携わる医師の多くは内科系の専門分野の資格を取得していますが、日常臨床において専門外の疾患にも幅広く対応する必要があり、総合診療医の役割も担っているのが実情であります。

このような本道の医療事情の中で、中長期的な総合診療医の育成と、橋渡しの役割を果たしている内科医の総合診療教育・研修支援という短期的な総合診療可能医の育成の両者を組み合わせ、本道の地域医療を総合診療の面から充実する事は、極めて意義のある取り組みと思われます。更に本学の教育的特徴である利尻、留萌、釧路、別海、中標津における地域医療合同チーム実習を、選択から必修に切り替えることにより更に充実し、地域医療の理解を推進する地域医療マインド形成という学生の実習教育を総合的に取り入れたのが、今回の「北の地域医療を支える総合診療医養成プラン」であります。北海道の地域医療を守るためにも極めて重要な取り組みであり、地方自治体、地域病院、地域基幹病院、本学の関係部署の御協力をいただいで推進していく所存です。



札幌医科大学
学 長（事業推進代表者）

島 本 和 明



札幌医科大学附属病院
病院長（事業推進責任者）

平 田 公 一

「未来医療研究人材養成拠点形成事業」における 附属病院としての役割と期待

札幌医科大学附属病院は、道民に対してはもとより広く国民に対して、高度で安心・安全な医療を提供する環境の構築向上に努力し、その一環として、人材育成に尽力して参りました。この間、学部教育と初期臨床医研修・専門医研修教育の一体化に配慮しつつ、世界標準以上の日常的医療行為を実践するとともに、Evidence-based Medicine (EBM) については学生や若い医師と共に考える教育をして参りました。このたびの「未来医療研究人材養成拠点形成事業」は、従来より実践してきた教育を段階的に発展させ、人材養成拠点としての機能実現を図るものです。高レベルの総合診療医となるには、

- (1) 先ず十分な日常・先進医療教育を受け、総合診療医を必要とする場でその全人的環境を体験し、かつ住民と共に生活圏を同一にしつつ、医療に参加すること。
- (2) リサーチマインドを抱く若者としては充実したリサーチ経験にも徹していただくことが必須と考えます。この点では米国の医学教育やレジデント制度にも学ぶものがございませぬ。

当該プロジェクトは札幌医科大学附属病院のもつソフトとハードの能力を最大限発揮しうる内容で、総合診療医育成システムの模範となりうる提案を未来へ向けて発信しているものと捉えます。医療体制の新しい価値観確立に向けての変革が生じようとしている今日、本事業に参加せんとする澆刺とした若き医師の登場を待望しています。附属病院は、未来型の一つの医療分野を育てるべく全ての医療従事者の参加・協力の下、積極的に当該事業の展開に協力して参ります。併せて北海道としての地域包括型のケアシステムを確立させるべく本事業においてソフト面からの参画によって、北海道との協調により指導者育成を行なうことも目標とします。附属病院の果たすべき役割・機能を新たに形成しつつ、将来の北海道医療を担う高い責任感を持つ優秀な総合診療医とその指導者の人材育成に尽力します。



本学の事業の概要 SUMMARY

本学では、これまでに北海道の地域医療を担う医師育成を目的とした入試制度改革や独自の地域医療教育に取り組んできた。この実績に加え、新たに卒前から卒業まで一貫した総合診療教育を推進するプログラムと、総合診療に関する研究教育の体制を新たに構築し、リサーチマインドを持った総合診療医の養成を行う。



達成目標 GOAL

- 地域の課題を発見し解決するリサーチマインドを持ち、地域医療の現場で診療に従事しながら科学的解析や研究成果の発信ができる総合診療専門医を育成する。
- 学部学生に対する地域医療マインドの醸成からはじまり、初期研修、後期研修、専門医資格取得まで、切れ目なく継続した総合診療専門医養成の教育体制を整備する。また、総合診療マインドを持つ専門医養成コースを設ける。
- リサーチカンファレンスや指導者講習会も活用し、総合診療医の養成にあたる指導者のスキルアップと層の拡大を図る。



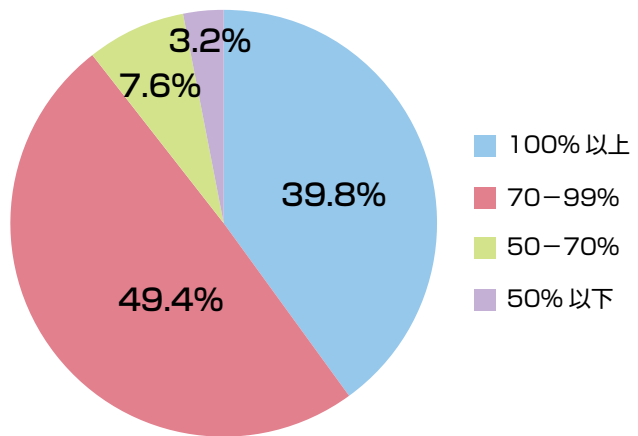
背景 BACKGROUND

北海道の人口は約550万人であり、医師数は人口10万人対235.4人(平成24年末)とほぼ全国平均に近い。また日本プライマリ・ケア連合学会に所属する道内の総合診療医は約490人(平成25年)で、全国的にも少なくはない。

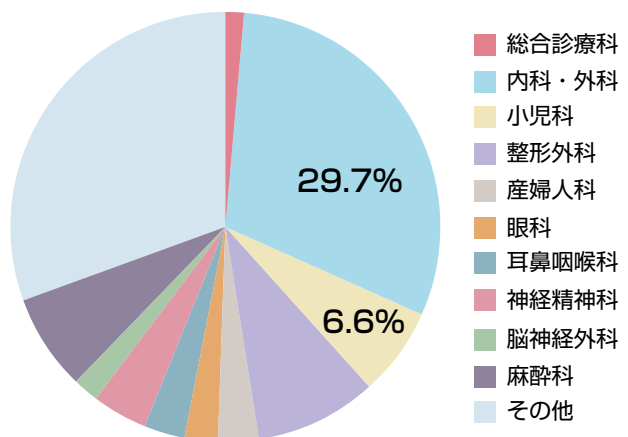
しかし北海道の総面積は83,457km²と広く、医師は都市部に集中し、地方の自治体病院の6割近くが慢性的に医師充足数を満たしていない。特に道北、道東、道南の遠隔地域において医師不足が著しい。

地域医療に携わる医師の多くは内科系の専門分野の資格を取得しているが、日常臨床において専門外の疾患にも幅広く対応する必要があり、総合診療医の役割も担っているのが実情である。

札幌医科大学病院が医師派遣で支援している地域診療の約30%(内科・外科の70-80%、小児科の50%)の診療内容は総合診療の対象疾患である。



市町村立病院の医師充足率(平成20年度)

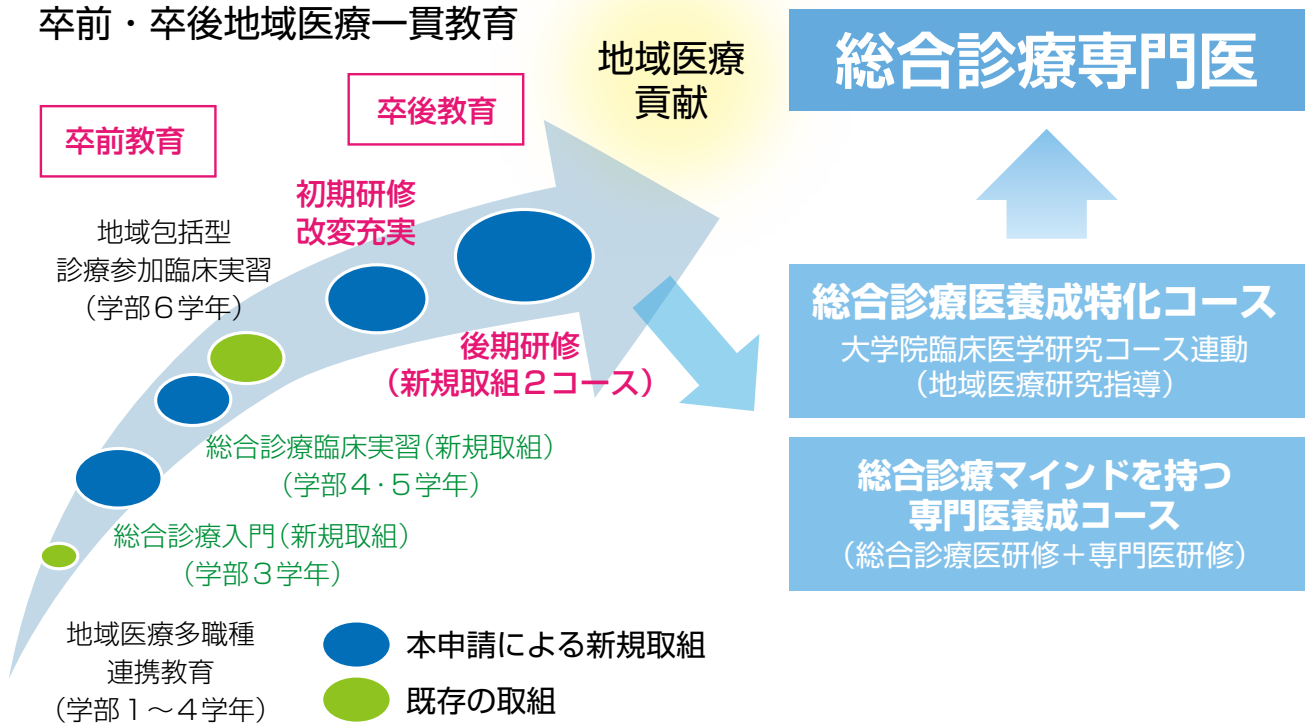


平成24年度医師派遣実績(1,972件)



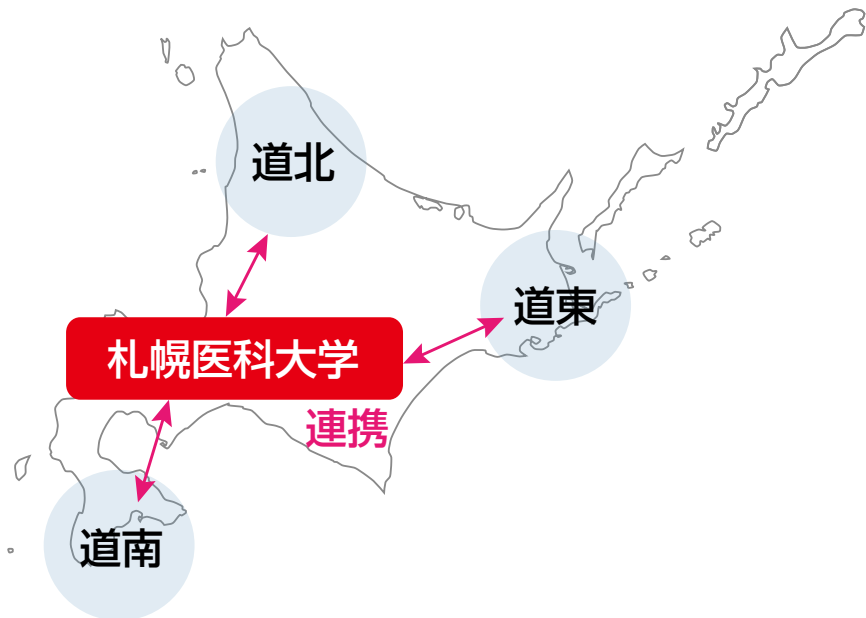
北の地域医療を支える 総合診療医養成プラン

卒前・卒後地域医療一貫教育

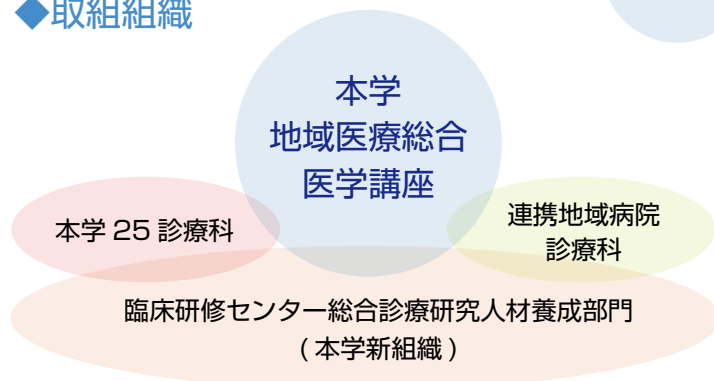


実施支援

- ◆ 本学3特設講座
道民医療推進学講座
オホーツク医療環境研究講座
南檜山周産期環境研究講座
- ◆ NPO 留萌コホートピア



◆取組組織



- ◆ 部門長: 臨床研修センター長
- ◆ 副部門長: 地域医療総合医学講座教授
- ◆ 部門員: 助教2名、特任助教5名

1～4学年対象

多職種連携教育に基づく地域医療マインド醸成プログラムの拡充

- ▶ これまで選択科目として実施してきた保健医療学部3学科(看護・理学療法・作業療法)との共通カリキュラム「地域医療合同セミナー」を必修化し、早期からの総合診療能力の形成を図る。



地域医療実習前のグループ学習



病院での医療実習



施設での実習

《概要》

- 1) 利尻島、根釧地区、留萌地区における医療・介護体験学習。
- 2) 実習施設は、地域病院、高齢者等福祉施設、地域産業施設。
- 3) 実習内容は、参加型医療体験、地域住民との交流、学習成果発表など。

3学年対象

新科目「総合診療入門」の開講

- ▶ 臨床実習の事前学習として位置づけられる科目であり、地域医療の観点から総合診療の基礎を学ぶ。

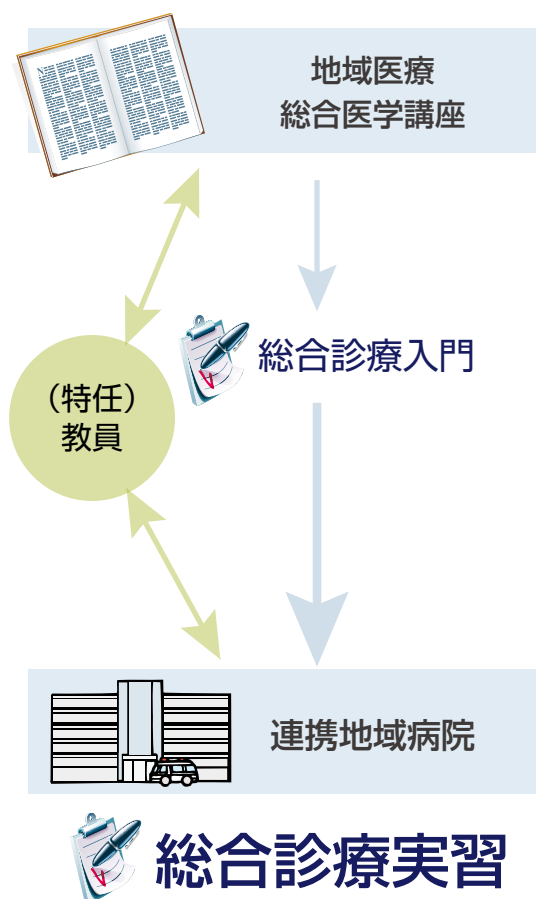
4～5学年対象

CBT合格後の診療参加型臨床実習病院における「総合診療実習」の実施

- ▶ 必修科目「地域医療総合医学講座 臨床実習」の選択肢として「総合診療実践病院コース」を開設し、江別市立病院等に2週間滞在し、総合診療実習を実施する。

《概要》

- 1) 道北、道東、道南の遠隔地域病院と本学をICTで結び、総合診療医の活動を学習。
- 2) 道内地域病院に学生を1～2週間滞在させ、1)での学習をもとに、自ら課題を設定して能動的医療実習を実施。
- 3) 実習成果は大学教員と実習病院指導者が評価し、学生へのフィードバックを行う。



最終段階の診療参加型臨床実習を地域基幹病院で実践

- ▶必修選択科目「地域包括型診療参加臨床実習」として全道各地の協力病院(8施設)に4週間滞在し実習する。

《概要》

- 1)遠隔地である道北、道東、道南の地域病院と本学をICTで結び、総合診療医の活動を学習。
- 2)診療チームの一員として、病棟回診、検査、処置、治療において課せられた役割を遂行。
- 3)外来診察の初期臨床対応の実際を学ぶ。
- 4)地域のサテライト施設(診療所、保健・福祉施設を含む。)、行政機関での実習。
- 5)実習成果は大学教員と実習病院指導者が評価とフィードバックを行う。



地域基幹病院



地域基幹病院を中心に診療所、介護施設、保健所にも実習先を広げ、地域医療を学ぶ。



- ①指導医として臨床教授等を任命し、FDを通じて屋根瓦方式の指導体制構築
- ②TV会議による学生教育と医学情報提供
- ③e-ラーニング利用による教育



札幌医科大学附属病院



広大な北海道内の診療参加型地域医療実習の実施

地域枠学生を中心とした活動

- ▶本学では、2008年度から入試制度に地域枠を導入し、毎年15名程度の学生が入学している。この学生を中心としたサークル「フラット」は、地域医療総合医学講座の教員とともに活動をしている。

※地域枠の概要：北海道から、医師免許取得後の卒業後9年間のうち、5年間を知事が指定する道内公的医療機関に勤務することを条件に奨学金が貸与される。

活動(1)／ランチョンセミナー

- 【回数】 2週に1回(昼休み)
 【テーマ】 ・医師の社会化
 ・患者中心の医療
 ・人間と医療を考える
 ・フォトボイスとは？

活動(3)／地域医療体験キャンプ

- 【目的】 実際に地域に赴き、地域医療の“場”を地域診断を通して理解する。
 【方法】 毎年秋に宿泊研修を行う。(1~2泊程度)
 【評価】 ポートフォリオによる。

活動(2)／臨床手技のトレーニング



住民宅訪問の一コマ

初期研修プログラム

大学では総合診療科で外来研修を行い、総合診療科の遠隔テレビ会議方式によるプライマリケア・レクチャーに参加する。

総合診療医を目指す研修医受入実績のある江別市立病院、松前町立病院での地域医療研修では、大学が派遣する専任教員による総合診療外来・入院診療、在宅医療の指導を受ける。

後期研修プログラム

地域の病院の総合診療部門において一人で様々な医療をマネジメントできるよう教育する。道内の地域病院においては診療実践や全国約160箇所の医療施設を繋いだテレビ会議を通じて在宅ケアや日常疾患のマネジメントを修得する。最終的に多職種協働のリーダーに必要な問題解決能力を身につける。

また、在宅ケアや予防をテーマとしたコホート研究等に取り組みながら、総合診療専門医を取得する。指導と評価は本学の教員や臨床教員として委嘱した地域病院の医師が担当する。

概要

初期研修改変充実

後期研修

総合診療専門医取得

大学が派遣する専任教員による
総合診療外来・入院診療、在宅医療の指導

<本学総合診療科>

- ▶ 外来研修
- ▶ 遠隔テレビ会議方式によるプライマリケア・レクチャー

<地域病院>

- ▶ 一人で様々な医療をマネジメントできるように教育
- ▶ 在宅ケアや日常疾患のマネジメントを修得
- ▶ 多職種協働のリーダーに必要な問題解決能力を修得
- ▶ 在宅ケアや予防をテーマとしたコホート研究
- ▶ 振り返り



PCLS;primary care lecture series 毎週水・木全国に発信



各テーマ毎(教育、新患、倫理等)のカンファレンス

3

総合診療マインドを持つ専門医養成コース COURSE

内科系専門医資格取得のための研修中の後期研修医を対象に、基本的な総合診療の知識と技能を修得させる。



外来総合診療研修

総合診療の対象疾患が原因と思われる症状・訴えについて、診断と治療方針の立案を行った上で本学附属病院の総合診療科外来にコンサルテーションを行い、指導と評価を受ける。



病棟総合診療研修

専門医研修を行っている診療科に入院中の患者の common disease に対する対応(診断と治療)、退院後の療養、かかりつけ医や介護者との連携について、総合診療科へのコンサルテーションを通して、総合診療専門医の指導と評価を受ける。

4

継続的なリサーチマインドの醸成 BREED

リサーチの成果を学ぶ

<学部学生>

- 第1学年:医学入門セミナー(3単位)
- 第2~6学年:MD-PhDプログラムの選択
- 第3学年:基礎医学の研究室配属(4週間)
- 第4学年:臨床疫学(0.5単位)

地域の課題を発見し解決する

<研修医・大学院生>

- ・本学大学院医学研究科共通講義
- ・研究課題に関する個別指導
- ・総合診療リサーチカンファレンス
- ・新規研究課題による研究推進
- ・北海道内で進行中のコホート研究の学習と研究参加(端野・壮瞥町研究、NPO留萌コホートピアなど)

リサーチマインドを持つ
総合診療医



キャリアアップに繋がる情報の充実

本事業のWebサイトに学内で受講できる セミナーや研修を掲載

- 先端医学セミナー：学内外の講師を招いた講演
- 院内講習会：医療安全、医療倫理、感染対策、医療関連法規など
- 指導者講習：臨床研修指導医養成講習会、FD教育セミナーなど

男女医師のキャリア形成支援関連webサイトへのリンク

- 北海道医師会 女性医師等支援相談窓口



e-ラーニング環境の充実

遠隔地におけるインターネットを活用した教育

- がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
- 手技コンサルト(Procedures Consult)

医師キャリア支援センターの設置準備

平成28年度までにセンター構築のための計画策定

- 新専門医制度に対応した病院体制におけるキャリア支援策の検討
- Genderに関する課題の抽出とその解決策の提案
- キャリア中断後のリカレント教育体制の導入計画
- キャリア支援のための情報ネットワークの活用計画の策定





お問合せ先

北海道公立大学法人 札幌医科大学

臨床研修センター(総合診療研究人材養成部門)

〒060-8556 北海道札幌市中央区南1条西17丁目
TEL 011-611-2111(代表)

札幌医科大学ホームページ

<http://web.sapmed.ac.jp/>